



報 告 書

Intercity Meeting

2012－2013

2013.2.19

国際ロータリー第 2790 地区 第 11 分区

ガバナー補佐 神谷 昭信

ウィシュトンホテル・ユーカリ

2012－2013年度

平成25年2月19日(火)

国際ロータリー第2790地区 第11分区 インターシティミーティング

司会(分区幹事) 土屋 信之

13:00 登録開始

13:30 点 鐘

ガバナー補佐 神谷 昭信

国歌斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

開会宣言

ホストクラブ会長 小池 康博

挨拶 講師ご紹介

ガバナー補佐 神谷 昭信

13:50 講演 テーマ「論語に学ぶ」

北辰文化倶楽部理事長 広瀬 幸吉

14:40 休憩 コーヒーブレイク

14:50 各クラブ発表

テーマ「ロータリアンとして思う事」(発表時間8分)各クラブ会長エレクト

会長エレクトへのエール・メッセージ(発表時間5分)各クラブ会長

習志野R. C 会長エレクト 杉山 芳夫

習志野R. C会長 鈴木 純雄

八千代R. C 会長エレクト 浅野 正敏

八千代R. C会長 齋藤 敏夫

佐倉R. C 会長エレクト 坪井 尚也

佐倉R. C会長 中島 一郎

八千代中央R. C会長エレクト 佐藤 政敏

八千代中央R. C会長 小池 康博

四街道R. C 会長エレクト 中澤 良夫

四街道R. C会長 山本 克己

習志野中央R. C 会長エレクト 布施 國雄

習志野中央R. C会長 鈴木 理

佐倉中央R. C会長エレクト 野池 尚美

佐倉中央R. C会長 橋岡 久太郎

16:20	直前ガバナー補佐に感謝状・記念品贈呈	ガバナー補佐	神谷 昭信
	直前ガバナー補佐 挨拶	直前ガバナー補佐	渡邊 敏美
	次年度ガバナー補佐 ご紹介	ガバナー補佐	神谷 昭信
	次年度ガバナー補佐 挨拶	次年度ガバナー補佐	今泉 重弘
	次年度ホストクラブ 挨拶	四街道R. C会長	山本 克己
	閉会宣言	ホストクラブ会長	小池 康博

懇 親 会

司 会 ホストクラブ幹事

佐藤 政敏

16:50	開会の言葉	ホストクラブ親睦委員長	笠川 輝美
	挨 拶	パストガバナー補佐	長谷川 禎一
	乾 杯	ホストクラブ直前会長	能田 宗建
	中 締 め	直前ガバナー補佐	渡邊 敏美
	ロータリーソング「手に手をつないで」		

18:00	閉会の言葉	ホストクラブ副会長	永田 幸一
-------	-------	-----------	-------

平成 25 年 2 月 19 日

国際ロータリー第 2790 地区第 11 分区 I・M (インターミーティング)

国際ロータリー第 2790 地区

第 11 分区ガバナー補佐 神谷 昭信

ご挨拶

皆様こんにちは。今年度の I・M に 11 分区、7 クラブの大勢の会員の皆様に御参加をいただき、大変有り難く心より感謝申し上げます。

I・M の目的は、分区内のロータリアンが 1 年に 1 回集会を行い、各クラブ間の情報の交換や他クラブの会員と面識を広め、お互いが理解し合い、また友情を深めるために行われる会合でございます。今回の I・M が今日ご出席のロータリアンの皆様にとりまして親睦を深める場として有意義な 1 日になりますようお願い申し上げます。

今回の I・M に際しまして、得居ガバナーは自分のお考えにあまりとらわれずに、ガバナー補佐に全てを一任され大変^{ふところ} 懐の深いところを見せて頂きました。その分、結果は全て私の責任になってしまいます。得居ガバナーに試されている思いでございます。

このような事情でございますので、今日の I・M は私なりの手作りの I・M にしたいと思っております。講演者も発表者も全て、11 分区内のロータリアンの方をお願いをさせていただきます。

ここで先ず講師の広瀬幸吉さんをご紹介します。広瀬さんは私と同じ八千代中央ロータリークラブの会員でありますと同時に北辰文化倶楽部理事長として東洋思想を根底とした講演と出版活動をされておられます。今から約 25 年前に「現代に生きる論語」という著書を読ませていただきまして、今までに何十回と読み返し拝読をさせていただきました。人間の生き方として大変参考にさせてもらっております。今日は「論語に学ぶ」というテーマでレジュメを用意しておりますのでそれに沿ってお話をさせていただきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

その後、会長エレクトの皆さんに「ロータリアンとして思うこと」をテーマとしてロータリーに対する熱い思いを語っていただき、引き続き現会長より会長エレクトに次年度へのエールのメッセージを送っていただきたくお願いを申し上げます。

本日の I・M が皆様にとりまして意義のあるものとなりますよう御祈念を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

「論語に学ぶ」

— 論語を愛した経営者たち —

北辰文化倶楽部理事長 広瀬幸吉

序論 論語が生まれた背景

- ・ 孔子の生きた時代は、今から二五〇〇年前。
諸国が乱立する春秋戦国時代。
- ・ 論語は、主に「いかに国を治めるか」を説いている。

一、学んで習う（実践主義）

「学びて時にこれを習う」（学而篇）

二、窮して乱れず（修正主義）

「君子もとより窮す、小人窮すればここに乱す」

（衛霊公篇）

三、いまだ生を知らず（現実主義）

「いまだ生を知らず、いづくんぞ死を知らん」

（先進篇）

四、馬を問わず（リーダー論）

「厩焚けたり、子、馬を問わず」（郷党篇）

五、大人は九族に親しむ 佐藤一斎

九族…高祖父母・曾祖父母・祖父母・父母

自分・子・孫・曾孫・玄孫

以上

最近も論語流行で、本屋ではよく売れています。これは道義が欠如してくるとその様な本が売れますが、これには低迷した社会の背景があります。

論語を語るとき、20 篇 512 章に渡る話の歴史的背景を考えると、有名な経営者である渋沢栄一や五島慶太などが論語を愛した理由がわかります。

今から 2500 年前、中国は春秋時代でした。一番戦乱の激しい時代で、よく言われる『今日の天下は明日のこつじき』という、人民にとって悲しい時代でした。そういった世相を孔子が見たとき『社会は安定しないものか。一族一家の幸せはいかにあるのか』と考えました。そこで『国家はこうあるべきである。人間関係はこうあるべきだ。リーダーはいかにあるべきか』という 3 つの柱を中心にして書かれたのが論語です。ですので、事業家が論語を愛するのは当然です。創業し創り上げ、守って継続させるというのが事業家の使命です。一家とて同じことで、一族が繁栄することは人間の本能です。そういった意味で論

語哲学と事業をされる方の考え方は、軌を同じくするがゆえに明治この方論語を愛する事業家が多いのです。

論語は、社会が安定するためにということで書かれ始めました。ただ、彼が書いたわけではありません。言行録であり『孔子がこう言った』という話です。近くは日本文化である茶道の千利休の話も、聞き語られ書かれたもので、一番弟子であった南坊宗啓の『南方録』という茶道三家のバイブルがあります。当時は全て本人が亡くなってから書いたもので、孔子などは尚更で、論語から300年後の司馬遷が書いたものにも『孔子がこう言った』と書いてあります。日本の論語の流布されているものは『史記』から応用されたものが多いとさえ言われています。

そういった時代背景から512章を見ると、どの文言も当てはまります。『どの様にしたら治まるか。どの様にすると乱れるか。どの様にして興こるか。どの様にして繁栄するか。どの様にして亡びるか』。いわゆる治乱興亡の理を書いたもので、これは国から一家庭にいたるまで原理原則同じ様をしています。論語を代表とする中国思想は、治乱興亡の理を説くものだと言われています。

1つ目の柱は『経国済民』。国を治め、人民を救うことです。ここから『経済』という言葉がでました。即ち政治論です。

2つ目の柱は『いかに人間関係はあるべきか』。応待辞令、人間関係論。

そして当然、世の中を治める学問なのでリーダーが問われます。『修己治人』の学と言い、己を修める、人を治めるということです。

この3本柱があり、その思想背景によって512章が書かれたのが論語の思想です。時代背景がわかると、理解しやすくなります。

これから話すことは私流の解釈ということで進めますが、論語をより学術的に掘り下げて知るためにh、通説とされる岩波書店の金谷治著、および明治書院の吉田賢抗著の論語を読むとよいでしょう。

.....

一、学んで習う（実践主義）「学びて時にこれを習う」（学而篇）

まず、「学びて時にこれを習う」から始まります。これが論語の精神的根幹で、これを抜きにして語れないほど有名な言葉です。また、ここから『学習院』という名前ができました。なぜかと言うと、学ぶということは、今から『512章についてアドバイスします。学ばせませよ』と論語が啖呵を切ります。しかし習わなければダメだということで初めて楽しくなる。『学びて時に之を習う、亦た説ばしからず乎』という訳です。学ぶということは原理原則です。そして学んで習うのが大事です。習うというのは会意文字です。雛が飛ぶのを真似るので『実習』と言い『行う』という文言があります。。どんなにいい事を聞いても、知っても、実行に移らなければ意味がないと冒頭で論語が言っています。よく言う『論語

読みの論語知らず』といいます。対句として『学んで思う』ということです。思うということは自分のものにするということです。論語を鵜呑みにしたって事業がうまく展開するわけでもなく、国家運営も簡単なものではない。論語そのものを当てはめても、一家が幸せになるわけではない。自分流に当てはめなさいというのが別の章に書いてあります。

儒教の中に一番出てくる文字は『仁・義・礼・智・信』の5つで道德の根幹の言葉です。儒教では『仁・義・礼・智・信』を五常の心と言ひ、人間が生きていくのに大切な心構えです。これを家訓にしたのが伊達政宗です。伊達家の偉さは学んで思うという、論語を鵜呑みにしないところです。だから260年も続いたわけです。

仁に過ぎれば弱くなる＝人間への愛ばかり重んじれば自分が弱くなる。義に過ぎれば固くなる＝義理ばかり重んずれば固くなる。礼に過ぎれば諂い（へつらい）となる＝礼儀ばかり重んずれば逆におべっか遣いになる。智に過ぎれば嘘をつく＝知恵を回しすぎると嘘をつく。信に過ぎれば損をする＝人を信じすぎれば損をする。

これは一例ですが、学んで思わなくてはダメで、自分流にしなければいけない。論語を読んだからといってすべてが上手くいくわけではない。世の中には2面性というか、積極的な人はおっちょこちょい。消極的な人は内気。全ての物事は2面性で、勝ち組の論理があれば負け組の論理もある。そこを生きていくのが私たちです。よって論語を鵜呑みにしてもものになりません。自分流にアレンジしなければなりません。

論語の哲学を『知行合一』と言います。これは512章の第一篇で学んで習うと言っています。哲学はとても奥が深いものです。これを頭に入れると判断の基準になると思い、私は『実践主義』としました。

.....
二、窮して乱れず（修正主義）「君子もとより窮す、小人窮すればここに乱す」
（衛霊公篇）

『修正主義』と書きましたが、弟子が先生に向かって『先生には間違いはないですよ』と聞き、孔子は『間違いだらけだ。自分も人間だから』と言ったそうです。『しかし、お前らと違うのは、間違った時に直すのが早い』すなわち『君子もとより窮す、小人窮すればここに乱す』と言いました。修正の失敗が本当の失敗になると言いました。

.....
三、いまだ生を知らず（現実主義）「いまだ生を知らず、いづくんぞ死を知らん」
（先進篇）

『現実主義』としました。『先生、死ぬということは怖いですね。死ぬということはどんなことなのでしょう』と弟子が聞いたところ、孔子は『死ぬ、生きるは運命だ。われ未だ生を知らず、いづくんぞ死を知らんや』と。今、何をすべきかに全力を尽くして生きていない。そして死ぬことはずっと先だ。だから今のことに全力を尽くすことと訳せます。『死

生命なり』死ぬと生きるは運命だ。これはしょうがない。もっと言えば、今できることに全力を尽くすことが、最後は豊かに死んでいくことにつながる。これは私の解釈です。

生まれる前と死後を論ずるのは宗教といいます。哲学は現実主義です。2500 年前の世に四聖がいました。ユダヤのキリスト、ギリシャのソクラテス、インドのお釈迦様、中国の孔子です。キリストのことはキリスト哲学とは言わずキリスト教です。仏教のことも仏教哲学とは言いません。しかし孔子のことを孔子教とは言いません。それは論語が哲学だからです。ソクラテスは哲学者ソクラテスです。どこで一線が引かれるかというと、生前、死後のことを語り過ぎないということです。これは私の解釈です。

四、馬を問わず（リーダー論）「厩焚けたり、子、馬を問わず」（郷党篇）

『厩焚けたり、子、馬を問わず』。『先生厩が焼けました』と弟子が言うと、孔子は馬のことは言わず使用人、馬を扱っている管理人に『お前らの体にケガはなかったか』と言いました。私流に言うリーダーの本質を突いた言葉です。

勝海舟は山本長五郎（清水次郎長）に『おい、お前の部下にはお前のために死ぬという人がたくさんいるらしいな』。次郎長親分は、今の人材派遣会社の社長です。勝海舟の言行録の中にありますが『その極意を教えてくれ』と海舟が言うと、次郎長は『それは閣下、逆でございます。自分のために死ぬ人も自分のために死んでくれるという子分もいやしませんよ。だけど野郎どもに何かあったときには、自分ほもろ肌脱ぐ腹は据わっていますよ』と。海舟は『そうか』と感激したという逸話です。リーダーのオーラがあれば、部下たちはリーダーの下に馳せ参じて物事を成し遂げるということに繋がってきます。『氷川清話』の中で『学んで思う』自分のものにしない人のことを「世間は生きている、理屈は死んでいる」とあります。そこまで洞察している有名な言葉です。

五、大人は九族に親しむ 佐藤一斎

九族…高祖父母・曾祖父母・祖父母・父母

自分・子・孫・曾孫・玄孫

最後に佐藤一斎という江戸時代の儒学者は『言志四録』という有名な本を残し現在も売られています。この『言志四録』を懐に入れて政治をしたのが西郷南洲です。小泉純一郎さんは田中真紀子さんが外務大臣のとき、17 人の大臣に向かって『この本を読んだか』と言ったのが『重職心得箇条』です。佐藤一斎は今から 140・50 年前の人ですが『言志四録』の中で『大人は九族に親しむ』と冒頭に言いました。ものを作るとき、創業守成のいずれが難しいかと言ったとき『守成は難し』と、守るのが難しい。継続することが難しいと。事業は修正能力とバトンタッチです。皆さんの仕事も含めて天下国家にも通ずる話です。そのことを佐藤一斎は九族を見て生きている、その心構えで生きないとダメだと言った言

葉です。もっと優しく言えば『愚行山を移す』。自分でできなきや子どもがやる。その意志が続けば孫、曾孫、玄孫までいけば何とかなる。これは有名な継続の教えです。自分は四代の影響を受けて今日があるという見方をしろ。論語もそうです。守ったものを安定安寧のみを、どうやって継続するかという学問です。九族と同じです。佐藤一斎の三学戒は有名です。『少にして学べば、則ち壮にして為すこと有り。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず』。屍となっても魂は生きている。『親』という字は、木の上に立って見る。遠くが見えること。国のリーダーは国の先を見る。リーダーの心構え。日常の努力は必要だが、もう一つ大きなところを見なければいけないというのが論語哲学です。

以上

佐倉ロータリークラブ

会長 中島 一郎

会長エレクトへのエール・メッセージ

こんにちは。

佐倉ロータリークラブ、会長の中島です。

会長職は輪番制にて必ず、時がたてば誰彼構わず廻ってくる事にクエッションマークがつきますが、そのためにもロータリークラブの会員として日頃から、家族・仕事・人間関係を大切にして、その時のために力を発揮できるよう準備しておく必要があると考えております。

ただし、あくまでも公私ともに自分の置かれている立場の中で、優先順位をつけ、ロータリークラブのために他にしわ寄せがこぬよう心掛ける事が重要ではないかと考えております。

また、私は佐倉ロータリークラブ発足以来の最低最悪な会長だと認識しております。

今の世の中、骨のある人が減少しているように感じていますが、次期会長の坪井会員においては、思う存分行動していただきたく、また何も心配もすることはなく、安心して一日でも早く会長職を引き継ぎたいと考えています。

ロータリアンとして思うこと

まず始めに、今日までの佐倉ロータリークラブの存続、及び反映にご尽力頂いた会員の皆様、私が当会に入会するにあたり声がけをしてくれた仲間、本日まで成長させてくれた仲間、会長の任に就こうとする事を承認してくれた仲間、全ての人達へ感謝すると共にその気持ちを行動で表したく会長という役職に就く事を今回強く決意致しました。

小さなきっかけから、ある一個人が地域の団体に係わり合い自分の成長が会の成長へ結びつき、やがては地域の発展に結びつく。ロータリー活動を通して実感したことの一つであります。

活動をしていく中で、ロータリー哲学を実践するために、最もいい奉仕をするにはどうすればいいか、常に工夫をすることを考えることにより高い目標を持つという事とは、現状が非常に好ましいものであっても、現状に満足することなく、より良い状態を獲得しようと追求していく事につながっていきます。その意欲が意識され、実現の可能性を追い求めていく事で個人の自己改革を促し、私たちメンバーが成長し、組織が有効的に機能していくのだと感じました。

ロータリアンとして想いを皆に伝えること、自分のスキルを磨くこと、感じたことのない感動を味わうこと、そして同じ想いで結ばれた仲間を作ること。めまぐるしい変化するこの時代だからこそ、明確なビジョンを持ち、一生懸命奉仕活動に邁進した結果、全く違った自分が迎えてくれます。

それは今まで出会うことの出来なかった新たな自分であり、新たな人生の一步を歩むための大きなスタートです。自己を拡大させたい強い想いはやがてメンバーの拡大へとつながり、しいては地域の明るさにつながると信じています。そのためにもこれまで以上に、より一層の積極的な活動を行い、鮮明な PR を通じて会員拡大も行って参ります。

また、新たな仲間を迎え入れる場の機会を作ることや歓迎の気持ちを表すだけでなく、一日も早く同じ足並みを揃えて歩んでいくための学びの場についても深く真剣に考えていきます。

むすびに、奉仕活動は形ではありません。人の想いで成り立っているからこそ、不動・不屈の精神により、これからも永遠に続きます。人生には色々な出会いがありますが、ここでしか会えない多くの仲間に出会うことができます。願うことは叶うこと。強い想いと信念で前進あるのみ。そしてこれからも大きく進化し続けます。

“Thoughtfulness of and helpfulness to others”『思いやりの心をもって他人のために尽くす』という国際ロータリー初代事務総長チェスリー・ペリーの言葉を意識して、ロータリー活動を続けていきたいと思えます。

佐倉中央ロータリークラブ
会長エレクト 野池 尚美

ロータリアンとして思うこと

2009－10 年度に新米の会長をいたしました、次年度は早くも二度目の会長となる予定の野池でございます。

ロータリーにお誘い頂いた十数年前は、三人の子供も小さかったですし、皮フ科の方も開業して七～八年で、慣れてきたとはいえ、私がロータリーに入る？と思いましたが、とんでもないですとご辞退申し上げました。

なぜなら、私の亡き父が群馬県の太田ロータリークラブのメンバーであって幼心に紳士の会と認識しておりました。

それからしばらくして、同じスカイプラザ E タワーにお住まいの橋岡会長に駐車場でお目にかかった時、年末クリスマス会に招かれて入会いたしました。

異業種、他地域、年齢不問、例会は週 1 回、1 時間集い、お食事しながらお話す。

内部卓話や外部卓話がなされ、自分の知らなかった多くの世界に触れる事が出来る。

私のことを例にとれば、学生時代の友達、ご近所付き合い、PTA のママ友、医師会等いろいろなグループの中でロータリークラブは最も近い友人関係です。

地域で活躍される皆様方と共に過ごせる環境と健康に感謝し、微力ながら自分にできる範囲で活動して参りたいと思います。

少し事務手続きが多いことが、私には苦手でもう少し簡略化できないものかと悩みのたねです。

佐倉中央ロータリークラブ

幹事 磯貝 美乃

「会長への応援メッセージ」

皆様こんにちは。

私は、佐倉中央ロータリークラブで、幹事を務めさせていただいております磯貝と申します。

本日は、橋岡会長が都合で欠席の為、代わって登壇させていただきますので、よろしくおねがいいたします。

皆様ご承知の通り、私どものクラブは、少人数で、とてもまとまりのあるアットホームなクラブです。

私は、2011年3月に入会させていただき、まだまだ新人の身でありながら、今年度「幹事」という大役を、なんとか務めさせて頂いているのも、橋岡会長や、野池会長エレクトをはじめ、諸先輩方が、温かく見守って下さっているからです。

例会へ出席するのも、緊張と不安な気持ちでいっぱいだった、入会后、しばらくの間は、何かと気にかけていただき、声をかけてくださるので、その度に、ほっとした気持ちになったことを思い出します。

野池会長エレクトは、2度目の会長です。

私の入会后に、入会された会員の方々も、大先輩ばかりで、私が勉強させていただくことばかりですが、私が出来ることを精一杯お手伝いさせていただこうと思っています。

会員同士のコミュニケーションを大切に、次年度も、野池会長のもと皆で、協力し合い、クラブを盛り上げていきたいと思っています。

以上、メンバーを代表して、応援メッセージとさせていただきます。

ありがとうございました。

四街道ロータリークラブ

会長 山本 克己

ロータリーIM

四街道ロータリークラブの会長を務めさせて頂いております山本と申します。

11 分区のガバナー補佐・幹事またクラブの会長・幹事の方々には、日頃からご指導頂きありがとうございます。

次年度会長の中沢さんには、ロータリー活動への想いが非常に熱い方であり、会員一人一人の皆様とも強い絆で結ばれている方です。

現在四街道は 24 名の会員数ではありますが、着実に会員数も増加傾向にあり、次年度は中沢会長の下、新たな仲間が増えることを確信しております。

私自身は、中沢新会長が会長として責務をスムーズに行える様、会員の皆さんとのコミュニケーションを深め、四街道ロータリーの歴史を作りあげて頂いた先輩諸氏の期待に応え、残りの任期を全うし、中沢新会長体制を全員で支えて行く所存です。

四街道ロータリークラブ
会長エレクト 中澤 良夫

ロータリアンとして思うこと

本日の IM スピーチでは「ロータリアンとして思う事」というお題をいただきました。広義なテーマとなりますので、私がロータリアンとして活動してきた事について良かった事をお話ししたいと思います。持ち時間が 8 分も有りますから話が持ちません。

ですから悪かった事なども少し交えてお話します。

まず、私のロータリー歴ですが、38 歳の時に当クラブの大賀会員にご推薦を頂き入会しまして現在 8 年目になります。

ロータリークラブと言う団体の名は知っていましたが、具体的な活動内容は知らないままに入会しましたので、初めのうちは例会や親睦会の多さには驚きましたが、クラブに早く馴染みたいと思ひまして昼の例会、夜の例会、そして深夜の例会にも、せっせとせっせと通っていました。

千葉市在住のため片道 40 分かけて例会に通っていますので、仕事時間はかなり減りますし、出席率を上げるために仕事を外部に委託して例会に行く時間を作るなど、経営者としては如何なものかと思われる行動も沢山行って、気付いたら社内では、会社よりもロータリーが大事らしいと言われていたようです。

先輩からは「名誉では飯は食えない」と戒められたことも有りました。

しかし、ロータリー活動をとおして自分が成長できると感じていたので「石の上にも 3 年」という思いを持って、しばらく続けてみようと思いました。

入会 3 年目にはクラブ幹事の任を頂きましたが、会長エレクトの退会等で大変に忙しい一年となり、ロータリー活動も 150%と感じるほどになりまして、会社も潰しちゃうかと思う事もありましたが、クラブ運営に深く係わる事により、ロータリーについても多くを勉強する機会となりました。

私の職業ですが、15 年程前に独立しまして消防設備や建築設備を扱う小さい会社を運営していますが当時の私には経営理念や職業奉仕の考えも無く、会社の進むべき方向もぼやけて見えていませんでしたが、ロータリアンとして活動する中で、良き経営者であるロータリアンの先輩達から良い刺激を受けて自分も経営者として研鑽を積み、会社を強くしたいと思い勉強もするようになりました。

又、「金儲け」に懐疑的な観念を持っていた私がそれらを払拭できたのは、当時の崎山ガバナーに頂いた言葉です。

「掌いっぱい稼ぎなさい、掌からこぼれおちる分は奉仕に使いなさい」と教えて頂きました。

あわせて「武士道」には大変に感銘を受けました。

良いロータリアンであるためには良い経営者でなければ活動できないというのが私の実感であり、これからもロータリー活動を続けるからには良い会社を作っていかなければロータリアンではいけないと思いますので職業奉仕にも一層努力します。

そして私のロータリー活動の中で、一番の楽しみとなってくれたのは RYLA です。

2790 地区の RYLA セミナーは各分区から集まる約 30 名の地区・実行の合同委員会により手作りで作り上げるため仲間も大勢増えますし絆も強いものになります。

この 11 分区の中にも RYLA をとおして親しくして頂いている仲間が大勢いますし、IM や地区大会などで他分区の仲間に会えるのは大変嬉しい事です。

山田年度には地区 RYLA 委員長の任を頂いた事により、全国 RYLA 研究会や他分区の情報研究会、他の委員会行事や十数クラブへのメーキャップなども経験させて頂きまして大変勉強になりました。

ロータリーを楽しむにはロータリーを知ること、ロータリーに深く係わる事だと思いますので次年度の会長を経験させて頂く事にしました。

ロータリアンとして活動してきて得した事は、ロータリーの奉仕という考え方、奉仕の機会、そして大切な仲間達です。

そして、ロータリーを楽しむために今後も他クラブへのメーキャップや地区委員会への参加を行っていきたいと思いますので皆さん宜しくお願いします。

ロータリーは時間も気力も、お金も沢山つかいますが、それに見合う成長や充実感を必ず得られると思います。

以上、やはりロータリーは良いことの方が多いとわかりました。

結びに、本日の素晴らしい IM をご準備頂いた神谷ガバナー補佐はじめスタッフの皆さんに感謝致します。

習志野ロータリークラブ
会長エレクト 杉山 芳夫

ロータリアンとして思う事

習志野ロータリークラブ、次年度会長の杉山芳夫です。

次年度は、幹事・鈴木均さんとともに、無事に、淡々と乗り越えて行くつもりですのでよろしくお願い致します。

当クラブは、今年 50 周年という最大イベントが控えております。実行委員会は、現会長の鈴木すみおさんを中心にえりすぐりのメンバーで取り組んでおりますので、次期会長というよりも、50 周年が過ぎるまでは今年度と次年度がまたがっているような気もいたしますので、気持ちの上でも盤石な年度かなと思っております。

私が非常に恵まれているのは、よきクラブの人々に救われていることです。又会長になるにあたって、40 歳で入会し今年ではや 20 年、そして私は年男。このような節目、変革の年に会長に就任できること。非常に感謝の気持ちでいっぱいです。

この 20 年を振り返りまして、ロータリアンとして何をしてこれたのかは、一番印象に残っているのは 10 数年前から行っているフィリピンミンダナオです。

空港につきバスに乗り、前後にはパトカー、白バイの先導で市内外施設を訪問させていただいたことが非常に印象的で、今でも私の心に残っております。ロータリークラブに入っていないと体験することの出来ない貴重な体験でした。

今でもお付き合いさせていただいている現地のクラブは、ワリンワリンクラブ、とても陽気あり、地域に貢献している女性ばかりのクラブです。今年も、1 月 18 日から 21 日までの 4 日間訪問し、今まで当クラブが関与させて頂いた施設を再度拝見して、歴史をさかのぼってまいりました。フィリピン・ワリンワリンのメンバーが 50 周年の記念式典日、11 月 29 日の為に、遠路フィリピンより、10 名近くの精鋭で来てくださるとの事です。人の繋がり、の素晴らしさをつくづく感じさせられます。

さて、本題のロータリーについて思うことになりましたが、あまりないんですね。

ロータリークラブに入会してから、一度も辞めたいと思ったことはありません。ただし、行くのが面倒だなと思ったことは多々あります。入会した時から、私は私のペースでやらして頂きました。その行為が、会員皆様にご迷惑をかけていたのだと思いますが、私はできる時がきたら始めようと思っていました。会員皆様のありがたい慈愛の心があったからこそできたことです。3 年前よりプログラム委員長・幹事・クラブ奉仕委員長を務めさせていただき、少しはロータリーの理解が出来始めたかな、程度です。在籍 20 年以来初めて 100%出席する事も出来ました。今年も 100%出席する事が出来たならば、と調整しています。6 月に雪でも降らないとよいのですが、皆様にお伝えしたいのは、私のようなタイプでも、色々な人々が形にとらわれず入会することができ、自然にロータリアンの輪が広がり、会員増強にもつながって行く、というように、一つ一つの物事を乗り越えていけば、先が見えてくると考えますので、本年度においては、50 周年を柱に、会員相互の団結が出来るような次のテーマを何か与えられるような 1 年になればと思います。

「^{はなむけ}餞の言葉」

月並みな「言」でお茶をにごす様なエールは失礼と思い一言。先ず自由に伸び伸びと会長職と言う特権を楽しんで下さい。

ロータリークラブには、幾つか重大な格言があります。今日はその中で、4つのテスト「真実かどうか」にふれ、杉山会長エレクトへの餞の言葉とし度く思います。この言葉は小生にとりまして人ごとでないからであります。突然の例えで恐縮ですが、いずれ万人共通且つ公平に仰える「死の直前」に人々は何を想うか？にかかわる重大な意味を含むからであります。あわてふためき、アキラメと共に朽ちるのか、満ち足りた感謝と平和、安らぎと共に「生」を昇華させ得るか、「真実かどうか」の実証の瞬間であります。

思えば真実程、人々に厳しく又、頼りになるものは無い事を知る今に至り、更にロータリークラブ程、その実践実証且つ、体験出来る場は無いと思います。ましてや会長職においておや、であります。

浅学未熟な小生にしても、最近つくづく感ずる「真実」とは、「人の運命自招」と言う事です。「運命は自ら招き、境遇は自らつくる！」と言う格言であり、一切を人のせい、他のせいにせず、「自分が変われば、世界が変わる！」という唯一希望実現への道しるべであります。

ふたこと目には、奉仕奉仕と言うロータリーがわざとらしく感じ、入会以前の世界と比べ、すべてが苦しく、安くもない会費を振り込み、言い度い事も言いにくいこんな団体から早く抜け出し度いと、30年間チャンスを伺って参り、先にヤメた人間をうらやましく思った事も有りました。ウツカリしていたら恥もかきそうだし。多少、ない見栄を張り、背伸びし続けねばならない・・・等、今思えばバカなプレッシャーに悩まされる期間が長く、多かったと思います。

ところがある時期、徐々に自分に変化が起きて参りました。多少ロータリークラブに慣れて、サメた目で見廻して見ると、(失礼ながら)自分が圧倒される程の大した人間は居ない！と気付くようになったのです。

ビクビクするより、他にやる事があると思い始めたのであります。

人夫々に違いこそすれ、自分の親先祖に戴いている「自分特有の良さ」をこの仲間の中で発見し、発揮して、人生の不可思議解明の場として活かそう！活かせる！と言う事に気が付いたのであります。100年かけて、欠点らしきものを直すやっかいさよりも、数段上で楽しく、而も自分も楽しく嬉しく、人も又自分の存在言動に喜んでくれる可能性を発見したのであります。

このまま行くと前述の「死の直前」の心の世界はきっと「極楽」そのものであらうと！。2000年前、キリストも(小生はクリスチャンではありません)真理は汝を自由ならしめんと遺されています。

こと程左様に、杉山会長エレクトには、きっと釈迦に説法と存じますが、是非小さい事

にこだわり翻弄される事無く、つたない直前会長の「小言」めいた体験を少し聞いて戴き、普通なら 1 回しかない「会長職」を、その実践実験、実証且つ体験の場として活かし、お楽しみ戴けたらと思います。

どうしてもいやになったら“ケツまくる”そんな度胸もあわせ持って楽しんで下さい。

50 周年記念（11 月 29 日）には、皆様どうぞ宜しく。有難うございました。

「ロータリアンとして思うこと」

習志野中央ロータリークラブ会長エレクトの布施國雄です。

今から 8 年前の古田会長年度が始まる前月に、ここに出席頂いており、チャータメンバーでもあります三代川利男会員、同じく高橋賢会員のご推薦を頂き入会させて頂きました。当時を振り返ってみますと、私は電電公社、後の NTT にて 30 年間勤め、平成 6 年にレカムサービスと言う小さな会社を興し、無我夢中でほとんど立ち止まる事なく走ってきた 11 年間（入会までの間）だったと記憶しております。

お二人からホテルに招かれて、食事をご馳走になり、その時のお話は「酒は飲めなくてもいいんだよ」「週一回色々な業種の人達と親睦をはかり、食事会を楽しむのも面白いものだ」又、「職業を通して奉仕活動もしているクラブなんだ、一緒にやろうよ！」その時の私は、そんな身分になって良いものだろうかとビックリ驚き、同時に私の気にしていた事、「酒が飲めなくてもよい」と言ってくれた事の心理的な安堵感を得、又、自分に出来てない 2 つの事が、もしかして出来るようになるかも、とその時感じました。

1 つ目は、多数の方の前でお話をするのが苦手（下手）もしかして、少しは上手になるかもしれない。2 つ目は、何か社会の役に立つ事が出来ないものか？ロータリアンになれば、出来るかも・・・と思いました。

それは、会社を興し 2 年目（平成 7 年）にさかのぼりますが、その時の正月会社の通帳は残り 100 万円弱（私を含め社員 3 名）と風前の灯火、あと 2 ヶ月会社が保てば・・・と妻と話しをしていた矢先、1 月 17 日早朝、阪神淡路の大震災、被災地の方々には大変お気の毒で不幸な出来事でしたが、被災地との連絡が固定電話では不通、通話規制で連絡がとれない状態が続いていたのですが、携帯電話はなんとか繋がったと言う事で、ポケットベルと携帯電話を販売していた当社は、川鉄や市原のコンビニート関連の企業から、大量注文の依頼が入り、今日に至っております。大震災で多くの被災を被った方々の為にも、少しでも社会奉仕、社会貢献が出来ればと、そしてロータリアンになって、更に新しい自分を見つけられるのではと思いました。

今回「ロータリアンとして思うこと」をインターシティーミーティングにて発表する事になり、当クラブの崎山パストガバナーに相談させて頂いたところ、参考にとアメリカオクラホマ州ノーマンロータリークラブのロン・バートン RI 会長エレクトが、次年度のテーマ「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」と発表された RI ニュースを頂きました。その中で、私なりに特に共感した事は、「今日ここにいる私達全員が心得ておくべき事は、誰かに何かをしてもらいたい時、相手がそれに気付いて自発的に行動するのを待つか、お願いするか、二つの選択肢がありますが、後者の方が、理にかなっている」と言っていた言葉です。それは、ひとつの寄付をお願いする時、じっと待つのと、一人一人お願いし、協力頂く事で大きな成果となる事が証明されたからこそその様です。この事は、私達家庭においても、会社においても同様に感じました。自らが常に率先垂範、女房や家族、会社においては、社員に時には頭を下げをお願いし続けてきているからこそ上手くいっているの

だと・・・会員増強活動も一緒だと思いました。

今言えることは、私ほどロータリアンとして、幸運な人生を送らせていただいている者はいないのでは、と毎日を喜びに満ちて過ごさせて頂いているのも、今から 5 年前にさかのぼりますが、平成 19 年の秋に原因不明の熱と背中に激しい痛みが毎日続き、幾つかの病院を梯子してレントゲン撮っても病名が分からず、痛みをこらえロータリークラブの例会に出席した時、入会をすすめてくださった高橋賢会員が、私の後ろ姿を見て、「布施さん背中が痛そうだな今から N 中央病院の院長先生に電話しておくから明日朝一で診てもらいなさい」と声をこえて頂きました。薬をも掴む思いで次の日診てもらいました。院長は、若い 40 代の中村先生を指名、即 MRI を撮って頂き、脊髄炎が判明、もう少し治療が遅れたら手遅れで、助かったとしても車いすでの生活、私の廻りの人達に大変な迷惑をかけながら生きていたのでは、今日ここで皆さんの前に元気な姿を見せられたかどうか？

高橋会員は、まさに次年度の RI 会長エレクトがテーマとしてかかげた「ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を」を見事私にお手本として示して頂いた命の恩人でもあります。

おかげ様で、今は元気でピンピン、本当に幸運な人生を送らせて頂いております。

自分が元気ならば、なんでもできます。次年度、習志野中央ロータリークラブの会長に選任されます。三代川文史朗会員を幹事に、歴代会長がそれぞれ築いてきた道を、そして現鈴木会長が特に実践してきている奉仕の理想と会員拡大への取り組みを継承しつつ、先輩各位の知恵をお借りし、そして多くの若き仲間と「ロータリーとは」「ロータリーの目的」等をもう一度学びながら、ロータリーを実践し、家庭においても「みんなが豊かな人生を」にむけ、裕ちゃんの歌の「生きている限り青春だ！」を口ずさみながら自分が元気である事が、平和な世界の基となるのではと心に決めて楽しく頑張っていきたい。

習志野中央ロータリークラブ

会長 鈴木 理

IM 布施國雄会長エレクトへのエール

皆さんこんにちは、習志野中央ロータリークラブ会長の鈴木理です。皆様宜しくお願い致します。今現在習志野中央ロータリークラブは 47 名の会員数でチャーターメンバーが 7 名女性会員が 6 名の構成に成って織ります。過去 7 年間会員増強目標を達成しているクラブで御座います。習志野中央ロータリークラブの会長を務め改めて感じた事は、パスト会員達が、新しい会員を役職に抜擢し、いつも温かく見守ってくださり、率先して職業奉仕・社会奉仕活動に参加している、活気のあるクラブと思われまます。布施國雄会長エレクトの発表の中にも有りましたが、会員同士の友情の輪がとても深くお互いの事を気に掛けて下さるクラブでも有ります。私の様な若輩者が会長職を努められておりますのも、先輩方は勿論ですが、入会 5 年未満の会員が数々の奉仕活動に参加しロータリアンとしての自覚を持ち楽しく活動をし、私や高山貴子幹事をバックアップして頂いている素晴らしいクラブですので、布施國雄会長エレクトには、ロン・バートン次年度 RI 会長のテーマでもあります「ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を」掲げ、家庭に於いても会社に於いても「みんなが豊かな生活を」実践し、「生きている限りは青春だ」を口ずさみながら会長を 1 年間楽しみながら頑張ってください。布施國雄会長年度が盛大に成ることを願いまして、エールの挨拶に代えさせていただきます。

ご静聴有り難う御座いました

ロータリアンとして思う事

皆様、こんにちは。

私は、八千代ロータリークラブに入会させていただいてから、丁度 20 年目の月日が経ちました。当クラブの人達は本当に真面目で、一生懸命ロータリーの向上を真剣に考えている人達が沢山おります中で、私等が良く続けてこられたなと思っております。

昨年末の総選挙において歴史的政権交代後 3 年 3 ヶ月間という民主政権が交代しました。政権に返り咲いた自由民主党は経済再生、教育再生、外交再生、くらしの再生を柱に大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略という 3 本の矢を放って、ロケットスタートを切りました。私達もまだ先は見えていないのですが、何となく我慢辛抱をしていれば明るい希望が見えてきそうな状況になっていると思っております。つい 3 年前には蓮舫議員による事業仕分けがあり、話題をさらいました。「1 番じゃなくて 2 番じゃ駄目なんですか？」との発言で皆様より大変批判やひんしゅくをかってしまいましたが、私自身の考え方では、間違っていると言われるかもしれませんが、2 番でも良いと思っております。表面上では負けていても、中身の自分自身の強い負けじ魂と強い自負心があれば、決して負けているのではなく、負けているように相手側が感じていけば、又それも良いのではないかと思っております。

さて、私は最近の国際ロータリーの教え方針には、いささかの疑問を感じる事がありますが、皆様方はどうでしょうか。例えばここ数年のテーマでとにもかくにも人数の確保が大事であるという考え方が強く感じられてなりません。以前には一業種一社だった決まり事が、同業 5 社まで OK になり、また女性の勧誘や発掘をせよとの人員確保にばかりこだわっているように感じてなりません。結果は入ってくれば良いという事になり、真のロータリアンが欠如し、逆に退会者が増えてしまっているのが現状であると思います。

私は会員の減少する事に慌てる事なく、今でこそロータリアンとは高貴なクラブの一員であると自負し、行動する事が何よりも現象を防ぎながら、増大存続する元と思っております。例えばロータリアン同士で行動する時は言動を慎み、静かに行動をすべきと思っております。凡ての行動や言動が世間に知れ渡り、その話しが廻りに廻ってしまうからです。その話しを聞いた本当のロータリアンを目指す人達はこの話しや言動行動を聞き、私もロータリーに入会しようと思うはずはありません。真のロータリアンが入会してこそ、退会等を考えずに皆のためになれる人だと、私は思っております。真の奉仕者（ロータリアン）を探し出す事が一時は減少しても、中味が濃く、これを聞いた心の奉仕者（ロータリアン）が入会してくれる事が、永続的に奉仕の理想を貫くロータリアンに育って行く事であると思っております。言うのはやさしい事です、しかしながら余りに真ばかりを追求すると、まずもって自分自身が危うくなってきます。

我が身を振り返り反省し、駄目なロータリアンとなった時は潔く切腹し、解らないように静かに退会しようと思っております。

ご静聴ありがとうございました。

八千代ロータリークラブ

会長 齋藤 敏夫

次年度会長へのエール・メッセージ

今年度も早、7ヶ月が過ぎゴールが見えてきたような思いです。ロータリー・クラブの人事は、3年前から準備が出来ますし、我がクラブは慣例で幹事を経験した順番に会長人事が進みますので、就任への覚悟や環境づくりもスケジュール化が出来て良い環境にあると思っています。

しかし、現実には就任間近になりますと想定を超えた事態も出現しますので慌てることも多々生じます。

他の団体でも共通しますが、就任前業務の手順の良し悪しと人事構想で任期中の活動の大半が決まって仕舞います。そういう意味では、次年度浅野会長エレクトと幹事予定者の杉山氏はもうすでに準備活動に入っている居られますし、その活動方針も構想が固まりつつあるように思えます。

八千代ロータリー・クラブも来期は47期を迎え、創立50周年事業の準備も視野に入りますし、現状に合ったクラブ運営も考えて行かねばなりません。「準備よければ凡てよし」と申します。私の年度での積み残した課題や今後の八千代ロータリー・クラブの在り方も含めてその独自性とブランディングに活躍されることを祈っています。

次年度は直前会長としてお役目を果たしていきたいと思っている処です。

八千代中央ロータリークラブ
会長エレクト 佐藤 政敏

ロータリアンとして思うこと

八千代中央ロータリークラブには、2005年1月に入会させて頂きました。当時、お世話になっていた坂本虎男会員より入会を勧められていましたが、ロータリーの知識もなくまた、毎週火曜日の昼の例会に出席する余裕もありませんでしたので、お断りしていましたが一度出席するだけでいいからとのお誘いで、2004年12月の「クリスマス家族会」に参加致しました。

厳かの中にも、楽しく和気あいあいとした雰囲気でした。

そして、自己紹介をした後に、坂本さんより来年から入会しますと言われ「ちょっと、違うでしょう」という感じで入会いたしました。最初の例会で、当時の小久保 克会長より「ロータリーのバッジ」をつけていただき、感動したことを思い出します。その後は、先輩会員の皆様にいろいろとご指導いただき、また、仲間として友達として公私にわたり楽しいお付き合いをさせていただいています。

今年度は、幹事をさせていただき経験の乏しさのため、小池康博会長には、いろいろと教えを請い助けていただき、感謝しながら自分なりに努力をして幹事を務めているところです。「ロータリアンとして思うこと」(クラブのある先輩会員より、ロータリーにはロータリアンとロータリーマンとロータリーヤの3つに分けられる人がある。ロータリアンは、個人生活、事業生活、および社会生活に常に奉仕の理想を思い実践している人、ロータリーマンは、一般的で友達をつくりロータリーを楽しむ人、ロータリーヤは、ロータリーを楽しみながら商売をしようとしている人……。それが、そうなのか解りませんが今の自分はロータリーマンかなと思っています。)

そんな私が思うことは、会員増強。2790地区会員・過去5年間の推移は、2007年・2924名(前年比)▲66名、2008年・2870名▲54名、2009年・2840名▲30名、2010年・2770名▲70名、2011年・2706名▲64名。84クラブで過去5年間で▲284名だそうです。当クラブでは、5年前の6月は26名、昨年の6月は28名と2名増員となっていますが、日本におけるロータリークラブの会員数は、1996年の11月末の130,982人をピークに2012年9月には88,809人(－42,173人)と減少を続けているそうです。会員の減少については、日本経済の鈍化、少子高齢化等様々な要因がありますが、地区・各クラブで、会員増強をさらに取り組んでいかなければならない大事な事だと思います。

ただ、数字合わせだけの会員増強ではなく、また退会する会員の防止を含めクラブの充実を図り魅力あるクラブづくりを、目指して行かなければならないと考えます。

そして、会員のロータリー知識の向上、特に入会5年未満の会員中心にもう一度、クラブ全体でのロータリーについての勉強会・研修をするということも大事なことだと思います。次年度は、会員皆様のお力をお借りして行動・言行は「四つのテスト」に照らし合わせて、目標に向かって微力ながら会長職を全うして行きたいと思っています。

八千代中央ロータリークラブ

会長 小池 康博

ロータリーに思うこと

今、7ヶ月が過ぎても、テーマ「みんなのためになるか どうか」点で未だにクエシュションになっている現状です。

地区ロータリーへの出席等の計画は義務だから出席をしますが、しかし、地元への協力に対してはもっとそれぞれの方のロータリー愛（特に所属）少ないように感じました。それは、各自委員会の計画性ではないではと思います。

地区は勉強会、地元は実践の場です今からでも地元に対する福祉活動の応援を継続性を持って行い少しずつ地に根付くことが大切でそこに活動シフトすることにより地元の方々の認識も徐々に変わり、我々のロータリー見方考え方がかわり色々な方と出会いと触れ合いができ、それによる信頼が生まれ頼る頼られる絆ができるのだと思います。しかし、この道程は長いものだと思いますが是非、エレクトの佐藤会員には持っている決断力とカリスマ性を発揮して個々の参加意識を目覚めさせていただきたいです。宜しくお願いします

追伸、私の好きな言葉 **凡事徹底**